

活動紹介：舞阪の自然を守る会×須山建設(株)×静岡県

■いかり瀬外来植物除去活動

「ふじのくに生物多様性地域戦略推進パートナーシップ協定」の締結により、浜松市西区舞阪町で「いかり瀬外来植物除去活動」が行われました。

この日、協定を交わした舞阪の自然を守る会、須山建設(株)、静岡県の他、高校生(浜松学芸高、オイスカ高、湖西高)、合わせて41名と飛び入りの参加者数名が参加し、青空の下で活動が行われました。

現地での活動に先立ち、舞阪協働センターで、海浜植物に詳しい宮崎一夫先生から、いかり瀬の外来植物の現状や種類、貴重な在来種などについて講義を受けました。

弁天島海浜公園に移動して、栈橋から船でいかり瀬に上陸し、現場で宮崎先生から外来植物の説明を受けてから、ヒメムカシヨモギ、シチヘンゲ(ピンクの花)、オオモナモミなどの外来植物を除去しました。



いかり瀬の外来種除去活動



この日は、1時間ほどの除去活動でしたが、回収した外来植物は大型のごみ袋数十袋分に達し、とても大きな成果をあげました。

参加された須山建設(株)の社員さんは「外来植物の除去は初めての経験で少し疲れましたが、楽しみながら参加できました。」「浜名湖の環境保全に貢献できてよかったです。」「多様な外来植物や貴重な在来種があることを初めて知りました。」などの感想でした。

今後は、社員が家族連れで参加できる活動内容にも発展できることを期待しています！



終了後に、須山建設(株)から参加した高校生に、記念品が渡されて大盛況の活動となりました！

浜名湖環境保全団体情報誌 第40号 はまなご環境通信

発行／静岡県(はまなご環境ネットワーク)
発行日／令和5年11月15日
事務局／NPO法人地域づくりサポートネット
浜松市中区常盤町133-13
TEL053-458-3480
Eメール info@shizuoka-t.net



■ふじのくに生物多様性地域戦略推進パートナーシップ協定締結

静岡県が令和5年8月に創設した「ふじのくに生物多様性地域戦略推進パートナーシップ制度」により、令和5年10月17日、舞阪の自然を守る会(浜松市)、須山建設株式会社(浜松市)、静岡県の三者でパートナーシップ協定が締結されました。

須山建設(株)は、「地域の企業として様々な地域貢献活動をしてきたが、『浜名湖』でも何か貢献できないかと模索していたところ、県からの紹介があって協力したい」と考え、協定を締結したとのことです。

今回の協定締結は、制度創設後初の事例です。



パートナーシップ協定締結の第1号

活動の目的	三者が相互に連携・協力して、浜名湖「いかり瀬」における外来植物除去や在来植物保護等に関する活動を推進する
活動場所	「いかり瀬」(浜松市西区舞阪町) ※弁天島の鳥居がある天然の干潟
活動の内容	外来植物除去活動等
協定期間	令和5年10月17日から令和6年3月31日まで(以後1年更新)

環境保全団体の「舞阪の自然を守る会」は、舞阪町のいかり瀬の貴重な在来種が外来植物によって駆逐されてしまうことに危機感を持ち、外来植物の除去活動をしてきました。しかし、活動に参加できる人材や資金が不足しており、活動の継続が課題とされてきました。その課題を解決するために、静岡県の仲介により浜松市内の建設会社「須山建設(株)」との協定が実現し、活動の支援を受けることができるようになりました。

なお、10月29日には協定締結に基づく活動が行われました。※詳しくは裏表紙を参照

ふじのくに生物多様性地域戦略推進パートナーシップ制度とは

希少野生動植物の保護や外来生物除去等の持続可能な環境保全活動を推進するため、静岡県が企業等と環境保全団体をマッチング(連携調整)し、三者で協定締結を行うことで、生物多様性の確保と自然環境の保全を図るための制度です。
制度は、令和5年8月から開始。
制度の詳細は静岡県自然保護課のホームページを御覧ください。



静岡県では、この制度をより多くの人に広めていくために、県内で研修会を開催していきます。

団体紹介：NPO法人ひずるしい鎮玉

■活動の経緯・主な活動

2013年にNPO法人ひずるしい鎮玉を設立。浜松市北区引佐町北部に位置する鎮玉（しずたま）地域は、ホタル生息地、久留女木の棚田に代表される里山の環境、歴史的建造物も数多く残されている地域です。ひずるしい鎮玉としては、里山の環境保全活動としてビオトープ作りや田んぼオーナー制度などを行ってきました。（田んぼオーナー制度は2015年から里山環境を守ろうと行っていたが2022年度で終了）。鎮玉地域はこの10年で少子高齢化が進み、人口は25%減、0～14歳の子どもは38.5%減と深刻な問題となっています。また、耕作放棄地の増加などによる農地や山林の荒廃も懸念されています。

今までこの地域のことを知ってもらい、魅力を伝えることで関係人口を増やす取り組みに力を入れてきましたが、定住人口が減少している現実もあり、この地域から子育て世代の流出を防ぐための事業に注力するとともに、移住者を増やしていくことなど持続可能な地域を目指し、新たな事業に転換していくようになりました。

○生態保全活動 別所川のビオトープ保全

別所川のビオトープは、ホタルや静岡県では鎮玉地域でしか生息していないといわれる希少な水生生物などの保全を目的につくられたものです。地元の小中学校には「ふるさと科」という授業があり、このふるさと科の一環でビオトープの生き物探しをしながら、水辺の生き物について学ぶ授業や、生態系の研究などを受け入れています。（写真はビオトープ周辺の草刈りの様子）



○しずたまの森活用と「鎮café～shizu café～」の運営

フルタイムでは働けない子育て世代が短い時間で気軽に働ける雇用の場の創出と、ほっと息つくことのできる場所の提供はできないだろうかと考え、しずたまの森に2023年4月「鎮café」をオープンしました。雑穀と季節野菜を使ったカラダとココロに優しい、しずたまランチセットや季節のスイーツ、鎮玉で採れたクロモジを使ったお茶などを提供し、遠方からご来店いただいております。現在スタッフは子育て世代の女性が7名ほど働いており、この土地を気に入り、移住された方もいます。



「しずたまの森」にはアオモジと野いちごが自生する小道があり、鎮caféのランチをテイクアウトして、森の散策を楽しむことができます。

○「しずたまの森」の資源を活かして企業との連携・商品開発

また、しずたまの森にはクロモジやヨモギなどのハーブが自生しており、地域の未利用資源を活かして手摘みの「鎮玉ハーブ」を生産・販売しています。

新たな取組として、持続的に資金調達できるよう、ギフト製造販売企業「大王製作所」との連携事業により「雑穀」を使った商品を開発中。遠州信用金庫もこの取組に協力してくれることになり、今後はクラウドファンディングで資金調達をして、年度内の商品完成を目指しています。



■活動の変化

設立して10年。遊休農地でのビオトープ作りや自然学習活動などの生態保全活動を行っています。それに加え、地域の担い手の減少が深刻な課題となっていることもあり、子育て世代の定着化や移住者を増やしていく活動にシフトし、自主財源を確保する新たな取組に挑戦しています。

NPO法人ひずるしい鎮玉

住所：浜松市北区引佐町四方浄30-12

電話：053-544-1045

E-mail：info@shizutama.jp

NPO法人ひずるしい鎮玉公式サイト



団体紹介：久留女木里山の会・竜宮小僧の会

■活動の経緯・主な活動

久留女木里山の会の前身である久留女木棚田の会を発足したのが1994年。その後1999年に日本の棚田百選及び静岡棚田等十選に選定され、2015年には久留女木棚田の会と外部耕作者の橋渡し役として「久留女木 竜宮小僧の会」が発足しました。外部の人が棚田に入ってくるようになると、不安になる地元の方もいたため、地域のルールを作り、棚田の管理にも力を入れました。久留女木棚田は、2017年NHK大河ドラマ「おんな城主直虎」の舞台として脚光を浴び、竜宮小僧サポーター制度を開始。2022年「久留女木地域振興協議会」を設立。（事務局：久留女木里山の会・竜宮小僧の会）

現在、竜宮小僧サポーター制度に加え、久留女木棚田塾を取り入れ、外部の人材の力も借りて美しい景観の維持や、棚田とともに豊かに暮らせる地域の姿を追求しています。

また、静岡県の「一社一村しずおか運動」により企業にも棚田の草刈り・環境保全などの活動に協力してもらえるようになり、協力して棚田の環境維持のために活動しています。

○久留女木棚田塾の担い手育成

竜宮小僧の会として、久留女木棚田塾を主催し、外部の耕作者を育成する取組をしています（棚田塾は1年を通して稲作を学ぶ仕組みで、全国的にも珍しい取組）。また、竜宮小僧サポーター制度があり、こちらは遠隔地にお住いの方や、棚田に通うのは難しいけれど、久留女木の棚田の維持保全に協力したいという方がサポーターとして会員登録をしています。

また、耕作者育成のため、耕作手順動画を作成。自立した耕作者を増やし、地域全体の品質向上や環境保全に努めています。



○収穫祭の開催

収穫祭は2022年で7回目。当初、地元農家、地域住民、外部耕作者、棚田の支援者（サポーターなど）の交流の場として開催しました。徐々に規模を拡大してコロナ前は一般の方も含めて200人ほどが集う会となりました。ここ2～3年はコロナ感染対策もあり、一般の方からの参加者は控えていただき、100人ほどで開催していました。各団体の取組のPRの場ともなっています。（写真は昨年度の大根収穫の様子）



○企業との連携 綿花を使用する「株HUIS（ハウス）」とタッグ

棚田の耕作放棄地を利用して綿花の生産を始めました。収穫した綿は遠州織物としてシャツやワンピース等を制作し、全国のHUISが展開する店舗や百貨店等での販売を計画しています。（写真は綿花収穫の様子）



■活動の変化

地元耕作者による「久留女木棚田の会」が発足してから約30年の月日が経過しています。「久留女木の棚田」の美しい景観を守り続けるためにも、参加したくなる、応援したくなる地域を目指し、外部関係者との連携活動を行っています。棚田塾外部耕作者の教材として、作業を動画に記録して分かりやすく活動できるようにするなど、新たな取り組みもされています。

現在では組織体制を強化させながら、環境の整備・保全に関して、企業や大学との連携しながら、棚田とともに豊かに暮らせる持続可能な地域の姿を追求しています。

久留女木里山の会・竜宮小僧の会

E-mail：ryugukozou@gmail.com

久留女木 竜宮小僧の会・久留女木の棚田 公式サイト

